

平成22年度全国高等学校総合体育大会【美ら島沖縄総体2010】
(第78回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成22年8月17日(第1日)

会場: プール

ゲームNo

3

帽子の色	白	1回戦	青	帽子の色
城北高等学校		1 3	山形県立山形工業高等学校	
3		0 1	10	
		1 2		
		1 4		
		EX.		
		-		
		-		
		P.T.		
		-		
天候: 晴れ			審判1: 若林 和人	
			審判2: 檳橋 邦広	

戦評

白:城北は関東予選を4位で勝ち上がり4年連続出場。青:山形工業は東北予選にて3試合で総得点77点という圧倒的な強さで1位通過し、12年連続の出場。ともにジュニアでの実績のある選手がいるチーム。個人技での見どころにも期待したい。

1P 青 羽角がセンターボールを取り、山形の攻撃から始まる。城北はの守りはセットディフェンス。山形のセンター 近野を警戒して、そこへボールを落とされないように守る。対して山形はミドルシュートで応戦するが、ファーストシュートは枠の外へ。山形の守りは1対1のファールディフェンス。ボールを保持した相手に積極的にプレッシャーをかける。城北の攻めは、広くセットをはりゴール前センターに構えるプレイヤーにボールをつなごうとするものだが、山形のボールプレッシャーに、スムーズにつなげない。お互いに手の内の探り合いが続き、開始から2分、先制は山形、センター 近野が素早い球さばきでディフェンスがチェックにくる前にバックシュートを放ち、得点。30秒後には山形 齋藤が右サイドハーフライン付近でキーパーからもらったパスをドリブルし、そのままシュートし得点。ここで1点を取り返しておきたい城北は、4分に退水オフェンスのチャンスを得る。しかし、シュートミス、逆に山形 志田、齋藤の2人の2年生に速攻を許し、齋藤の得点で3点差に広がってしまった。その後はお互いに単調なミドルシュートの打ち合いになる。残り10秒、城北に退水オフェンスのチャンス、ここはキャプテン 小川が確実に決めた。

2P 相手のハードディフェンスにボールがつかない城北、ゴール前に下がられて上からのミドルシュートを打つしかない山形。得点の入らない時間が続く。ドリフトも中盤、山形 齋藤のドリブルに対して、城北にEX。このパスをゴール前に切り込んだ 羽角がワンタッチシュートで4点目を決める。城北は1年生 松本が頑張って相手のEXを誘発したりするのだが、城北のシュートはことごとく山形キャプテン 木村に阻まれる。

3P コートを入れ替り、3点差で試合も後半へ。これ以上離されたくない城北とここで差を広げて主導権をとりたい山形、次の1点が重要となる。城北のミドルシュートははじかれ、山形はオフェンスファールが増え、ラリーが続く。4分25秒、山形ディフェンス一瞬の隙に城北にフリーの選手ができる。左45°7mからのミドルシュートを 仲栄真が落ち着いて決める、これで2点差。このまま城北に勢いがつくかと思われたが、さすがに山形、焦らずしかも大胆なプレーで差を広げる。3分30秒、山形 高橋が右サイドからゴール前にセミロングのセンターリングパス、タイミング良くカットインしていた 近野がマークを背負いながらワンタッチシュートで得点。3分10秒にはターンオーバー時に城北にEXトラブル、ここで勝負を確実にしたい山形ベンチはタイムアウトを請求。この攻撃でのシュートは外してしまうが、次のターンでも退水を誘発し、羽角が得点した。

4P 山形は一気にたたみかける。6分47秒、山形 羽角が右サイドからマークを背負いながらボールを持ち込み、キーパーが出てきたところを沈まずにボールをコントロールし得点。6分11秒、右サイドからのセンターリングパスを山形 高橋がワンタッチシュートで得点。城北ディフェンスがついていけないように見えた。5分42秒には山形 齋藤がカウンター攻撃から得点、9対2となる。3分32秒、山形にEXトラブル、1点でも返しておきたい城北ベンチはタイムアウトを請求。しかしこの攻撃もシュートがディフェンスに阻まれ、そのボールは山形の速攻へと変わる、山形 羽角が得点、10対2と勝敗を決定づける。城北は、残り11秒に退水のセットオフェンスで2年 平塚が得点、一矢を報いる。

記録者

志水 啓介